

協会レポート

日本EGF協会

EGFなどの正確な情報を発信 各種研究データも逐次発表

新たな化粧品素材として導入が進むグロースファクター原料・EGF。大阪に本拠を置くNPO日本EGF協会は一般消費者ならび販売者に対して化粧品用途におけるEGFの正確な情報を提供することを主目的に活動する。同協会では一部の粗悪なEGF配合商品によりEGFのイメージが損なわれないよう、EGF配合量や生理活性数値などに関するガイドラインを設け、これに適合する製品に対し品質保証マークを発行するなどの活動を行う。「現在、残念ながらEGF配合化粧品を含めた一般化粧品において、これらを検証・情報公開する機関はほとんどなく、虚偽、誇大広告、不当表示が横行している。我々は、EGF原料をはじめグロースファクターを配合した化粧品を含めた一般化粧品について、第三者的な視点で検証しつつ、専門家と連携のうえ、消費者に安全な化粧品の知識や有益な情報を提供することが、消費者保護に寄与すると考える」という。

最近では新たな化粧品原料として普及が進むFGF-7原料による、まつ毛用美容液モニター(2010年4月～2010年7月実施)の結果を発表した。「発毛因子として注目されるFGF-7を直接まつ毛に塗布することで、その作用、効果を検証」するのがその目的。

モニターに使用した美容液は、おおむね2ヵ月で使いきる量として6mlとし、FGF-7の配合量を、A: 6,000IU/6ml、B: 2,000IU/6ml、の2種類用意した。

担体は、水を主体とした美容液で、使

用感を出す為にグリセリン、BGなどを配合、また防腐剤には化粧品に一般的に使用されるパラベン、フェノキシエタノールを採用。まつ毛を保護する目的でパントテン酸誘導体、ヒアルロン酸、ケラチン、ダイズエキスを助剤として添加した。ポリマー成分などを配合することで、美容液がまつ毛に付着し乾燥した後に、まつ毛が太くなったような錯覚を起こす事を防ぐ為、カルボマー等の合成ポリマー、セルロース類は一切配合しなかった。

被験者はAが女性7名、Bが女性3名の合計10名で、6mlの美容液をおおむね8週間かけて毎日両まつ毛に塗布し、1週間ごとに各項目(長さ、太さ、毛量、傷み)の変化を記録。調査項目は「1.まつ毛の長さの変化について」、「2.まつ毛の太さの変化について」、「3.まつ毛の毛量の変化について」、「4.まつ毛の痛みの変化について」の4項目とし、それぞれ、変化なし1～改善した5までの5段階評価とした。

結論は、「すべての項目で効果があることが認められ、特にまつ毛の太さと毛量については、FGF-7投与によりほぼ確実に効果が出ているものと考えられる」とする。「評価3以上はすべての項目でFGF-7濃度の高いAのほうが上回っているが、Bであっても良好な効果が期待できると考えられる」としている。

まつ毛の太さの変化について

	5段階評価					
	1	2	3	4	5	
A+B	0	0	7	2	1	評価3以上100%
Aのみ	0	0	5	1	1	評価3以上100%